



出版クラブ会報 No.632



「出版界の失われた30年」に 終止符を打つ迅速で大きな改革を

日本出版クラブ会長 野間 省伸

(のま・よしのぶ)

あけましておめでとうござ
います。

昨年は日本人2名がノーベ
ル賞受賞といううれしいニュ
ースがありました。生理学・
医学賞を受賞した坂口志文さ
んは、12月の授賞式前の恒例
のイベントで、受賞理由とな
った「制御性T細胞」がキャ
ラクターとして登場するコミ
ック『はたらく細胞』を、ノ
ーベル博物館に私物として寄
贈しました。コミックという
媒体は、世界最先端の研究で
も分かりやすく世の中に伝え
るメディアでもあることが世
界中に認識された一例と言え
ます。
書籍に目を向けると昨年の

年間ベストセラーは、吉田修
一さんの『国宝』がダントツ
の1位でした(トーハン調
べ)。さらにこの本を原作と
した映画は興行収入が邦画の
実写における歴代最高記録を
更新しました。吉田さんは黒
衣として3年間舞台を取材さ
れたと言います。綿密な取材
に裏付けられた物語は映画業
界も巻き込んだ一大ムーブメ
ントとなりました。

近年ヨーロッパでは日本文
学ブームが起きています。特
にイギリスでは柚木麻子さん
の『BUTTER』(新潮社)
が英国推理作家協会賞(ダガ
ー賞) 翻訳小説部門の最終候
補作に、雨穴さんの『変な絵』

(双葉社) が大手書店チェー
ンウォーターストーンズが選
出する2025年「年間ベス
トブック賞」において、最終
候補にノミネートされたりも
しています。

非常に注目され評価も高い
作品が出ている一方で、出版
業界の大きな課題の一つが書
店の数がこの20年で約半分に
減少していることです。これ
を受けて、昨年6月に「書店
活性化プラン」が経済産業省
から公表されプロジェクトチ
ームが大変直轄で立ち上げら
れました。

また、昨年11月には書店議
連の中心メンバーでもある齋
藤健元経産大臣が衆議院予算

委員会が書店支援の強化を求
めたのに対して、高市早苗首
相から「書店活性化プランに
基づく支援策を引き続き実施
し、今後もしっかりと書店の
活性化を進める」という明確
な答弁がありました。

今後は課題解決の施策をど
う具現化するか、一刻も早い
改善に向けた実行力が大切で
す。いつも申し上げているよ
うに、書店はただの販売拠点
ではなく、読者が未知の情報
や新しい価値観に出会う場
であり、文化創造の基盤でもあ
ります。出版界が豊かに発展
するためには、書店の活性化
が不可欠だと考えます。

昨年の第64回全出版人大会
には、約400人の方々にお
集まりいただきました。有斐
閣社長の江草貞治様に大会委
員長をお引き受けいただき、
「たくさんある課題に対して
全出版人が同じ方向を向くこ
とが簡単ではなくなっていま
す。それでも一丸となってや
るべきことがたくさんある
ぞ」という大会声明をいただ

きました。また、記念講演で
は宇野重規東京大学社会科学
研究所所長から「全出版人の
みなさまとともに、知の民主
主義を通じて、権威主義とリ
バタリアンに対抗していきた
いと思っています」という力
強いお言葉がありました。

本年、出版クラブビルは開
館9年目を迎えます。当初よ
り取り組んできました3階の
クラブライブラリーでは、11
月に日本書籍出版協会の協力
を得て「ひとりひとりが『生
きる』みんなの世界」ジェン
ダーと読書展」を開催しまし
た。ジェンダーをテーマとし
た展示は3回目となります。

ジェンダー・ダイバーシティ
の推進は出版界の発展にとっ
てきわめて重要なことと考え
ています。

日本の出版物の推定販売金
額はちょうど30年前の199
6年に2兆6564万円を記
録しましたが、昨年は書籍と
雑誌を合わせて1兆円を切っ
たと思われまます。いわば「出
版界の失われた30年」に終止
符を打つためには、迅速で大
きな改革が必要です。出版界
一丸となって取り組んでいき
ましょう。

本年も何卒よろしくお願
いいたします。

(講談社社長)

主な記事

- ▽2026年 新年名刺交換会団体代表ご挨拶……………一〇五
- 野間 省伸・小野寺 優・宮原 博昭・近藤 敏貴・矢幡 秀治……………六〇・七十七
- ▽新春紙上名刺交換……………六〇・七十七
- ▽震災対策室だより……………一八・一九
- ▽〈出版歳時記〉ある読書人の痕跡……………二十

日本書籍出版協会理事長の挨拶



出版界に差す光

小野寺 優

(おののら・まやむ)

謹んで新春のお慶びを申し上げます。旧年中は当協会の活動に多大なご支援を賜り、厚く御礼を申し上げます。

昨年は出版界を覆う影が濃さを増す一方、わずかながら光も差し込んできた、そんな印象の年でした。

紙の出版物の売り上げは依然として厳しく、ついに一兆円を割り込むのが確実な状況となりました。一時ほどではないとはいえ、書店の減少も続いており、本と読者が出合う場が日々失われています。

出版社においては、新刊一点あたりの部数が減少する一方、紙をはじめとする資材費や印刷・製本の経費、物流経費など、本を作り、届けるための費用の高騰が続いています。特に物流経費についてはトラック新法の施行が本年四月に迫っており、その影響が強く懸念されます。これらの急激なコスト増に対し、出版界内部では価格アップによる対応を望む声が多く、多くの出版社もそれに対応しようと

していますが、今後想定されるコスト増を価格だけで賄おうとすれば、いったいいくらにすれば良いのか、どこまでなら読者はついてきてくれるのか、悩みは尽きません。

生成AIが一気に進歩し、出版界においても業務の効率化に大いに資するようになつた一方、それに伴う権利侵害問題が噴出したのも昨年を象徴する出来事でした。出版社や著作者の知らないところで出版物が勝手にAIの学習に使われ、作品が損なわれる事態、権利が侵害される事態は決してあってはなりません。本年、書協では知的財産権委員会において、生成AIに対応した出版契約書ヒナ型の改定等の検討を行う予定です。

このように出版をとりまく環境が厳しさを増す中、昨年六月には、書店議連の後押しもあり、経済産業省が書店活性化プランを策定、公表しました。国が書店をはじめとする出版界の現状に関心を持ち、対策を打ち出すことはあ

まり例のなかったことです。大変ありがたいことで、これまで国に対して地道に問題を訴え続けてきた関係者の方々に心より感謝を申し上げます。

書店活性化プランには多くの項目が掲げられています。が、それをどうやって実行するかは、出版界の手に委ねられています。国に頼るだけではなく、我々自身が何をすべきかを考えるきっかけとし、改革を続けていく、国にはその後押しをしてもらう、という姿勢が大切ではないでしょうか。出版界の課題や取り組みを広く社会に発信し、理解を得、結果としてそれが国の支援につながっていくことが肝要だと思えます。

また、昨年強く実感したのは、海外、特に欧米における日本のコンテンツ、特に文学作品に対する関心の高まりです。欧米でベストセラーになる作品や文学賞を受賞する作品も増えてきました。四年目を迎えた読書推進キャンペーン

「BOOK MEETS NEXT」の主要イベント「TOKYO RIGHTS MEETING」も活況を呈したと聞いています。この状況を見て、文化庁も昨年十二月には活字文化グローバル展開協議会を発足させ、日本の文学作品の海外進出を後押しする仕組み作りを始めました。また、海外のブックフェアからも、日本を特別招待国にしたいというオファーが相次いでいます。

マンガやアニメのみならず、日本のコンテンツの海外市場が形成されることは、大変重要なことです。国内市場には関係のない話、と思われ方もいらっしゃるかもしれませんが、決してそうではありません。K-POPの流行や、世界的人気のマンガの影響を見ても、海外市場を活性化させることは必ず国内市場の活性化につながります。課題はありますが、この機を逃さず、取り組むべきだと考えます。

その他、図書館等公衆送信補償金制度、授業目的公衆送信補償金制度、読書バリアフリー基本計画の適切な運用など取り組むべき課題は山積していますが、本の力を信じ、皆様とともに希望を持って乗り越えていきたいと思えます。本年もよろしくお願いたします。

(河出書房新社社長)



- since 1960 -

大切なあのひとへ、本との出会いを。

図書カードNEXTは「本屋さんへの招待状」です。

日本図書普及株式会社



日本雑誌協会理事長の挨拶



変わりゆく時代を皆様とともに

宮原 博昭

(みやはら・ひろあき)

明けてましておめでとうございます。日頃より日本雑誌協会の活動に多大なるご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

社会や技術が急速に変化する中で、雑誌メディアを取り巻く環境も大きく揺れております。本年もこうした動きに対応しつつ、雑誌の価値をいかに次世代へつなぐかがこれまで以上に問われる一年となります。

とりわけ生成AIの進展は編集・制作の現場にさまざまな影響を与えています。企画や分析の効率化といった可能性が広がる一方で、著作物の学習データや権利処理、フェイクコンテンツの拡散といった懸念も顕在化しています。

デジタル環境の変化と表裏一体で深刻化しているのが、海賊版被害です。昨秋A・B・Jが公表した調査報告では、全世界でタダ読みされた金額を年間換算で約8・5兆円と試算しており、その規模はますます拡大しています。

出版社4社が米クラウドフリアを提訴した裁判では、11月に東京地裁が同社の著作権

侵害幫助を認め、約5億円の賠償を命じましたが、漫画海賊版サイトは摘発されても形を変えて再出現し、AIを悪用した新たな手法も生まれています。

また、教育出版を基礎とする学研の立場から申しますと、同じく海賊版で多大な被害を受けているのが、辞書・問題集・参考書類です。国力の源泉を削がれるようで、危機意識を持っています。

これらは著作者への正当な利益還元を脅かすだけでなく、出版社がコンテンツへ持続的に投資するための基盤そのものを揺るがす問題です。国や権利者団体との連携、国際的な情報共有などにも取り組み、根本的な解決を目指します。

また、昨年6月に公正取引委員会が出版社2社に対してフリールランス新法に違反したとして勧告を行いました。雑協にも要請文が届きました。これを受けて、10月に担当官を招いてセミナーを実施しました。出版業界、特に雑誌は、多くのフリールランスの方々に支えられています。透明で公正

な取引環境を整えることは、良質なコンテンツを安定的に生み出すためにも欠かせません。当協会としても出版社とフリールランスが信頼関係のもとで協働できる環境づくりを進めていきます。

一方で、その後方にある流通インフラの再構築も喫緊の課題です。物流の働き方改革に伴う「トラック新法」は、輸送能力の制約やコスト増に直結し、雑誌の迅速かつ安定した配送体制の維持を難しくしています。

さらに、印刷業界からも自助努力だけで持続可能な生産体制を維持するのは困難な状況であるという訴えも届いています。

これまで「書店」「取次」「出版社」が三位一体で支えてきた出版流通ですが、今後は「輸送」「印刷」「製本」も加えた六位一体の連携による課題解決が求められます。引き続き関係団体との協議を深め、持続可能な流通モデルの構築を後押ししてまいります。海外に目を向けると、昨年10月にスペイン・マドリッドで開催されたF・I・P・P世界大

会では、やはり生成AIが話題の中心でした。今回、野間副理事長が日本を代表して登壇し、IP利用によるリアルとバーチャル双方向でファンと熱量を活かすことが新たなビジネスを生むことを強調されたそうです。

私も7月にJ・P・I・C主催のフランス出版文化視察に参加しましたが、国の支援だけでなく、民間同士の連携で出版文化を守ろうとする姿勢から、多くの示唆を得るとともに、「本を読むことで他人を思いやる心が育まれる」という書店員の言葉にも深い感銘を受けました。国内でも「書店活性化プログラム」が発表されましたが、海外の事例も参考に横断的な取り組みが期待されます。

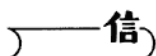
昨年は戦後80年、会員社ではKADOKAWA、光文社、少年画報社、マガジンハウスが創業80周年を迎えました。本年も昭和21年創業の学研HD、暮しの手帖社、主婦と生活社、世界文化社グループ、PHP研究所、ベースポール・マガジン社が80周年となります。

用紙が不足し、書店に雑誌や本を届けることもままならなかった黎明期を乗り越えた先人たちの原点をつねに意識し、ピンチに立ち向かえ、本年も皆様と力を合わせ、健全な市場環境づくりと新たな価値創造に取り組んでまいります。

(学研ホールディングス社長)

我が国唯一の 出版関連産業専門金融機関

本の香りのする街には、ぶんしんがある。



文化産業信用組合

<https://www.bunka-shinyo.co.jp/>



預金・借入、事業承継など ご相談はお気軽にご連絡ください : 本店 / 千代田区神田神保町1-101 ☎3292-2711

日本出版取次協会会長の挨拶



出版業界はどこまでやれるか

近藤 敏貴
(こんどう・としたか)

明けておめでとうございます。旧年中は大変お世話になりました。厚く御礼申し上げます。

出版流通は「2024年問題」「CVS取引の変更」等々、いくつもの大きな波を乗り越えてきたところですが、ここに至りて最も大きな荒波が迫りつつあります。2025年6月4日、参議院本会議において賛成多数で可決・成立しました、いわゆる「トラック新法」です。

これにより法的な拘束力を伴って全産業的に物流費用が上昇します。運賃の適正原価は未開示ですが、関係各所の情報を総合すると、出版輸送の運賃は最大で現在の2倍となる可能性があります。その場合、主に取次が負担する送品運賃は年間270億円、書店様・CVS様が負担する返品運賃は102億円の増加となるという試算もあります。そして、その時期は2027年度から2028年度にかけて到来することが法令か

ら読み取れます。早ければ一年半後には出版輸送の運賃が倍増することです。

戦後70年以上にわたり出版産業を流通面から支えてきた立場として、私も取次は強い危機感と焦燥感を持っています。もはやこれは取次という一業種の経営課題ではありません。本を作って日本の隅々に届けるサプライチェーンの存続問題であります。

出版産業の根幹である全国への共同配送網は、一度崩壊すれば再構築は容易ではありません。流通の破綻は読書離れ、書店離れに直結するものであり、出版物を読者に届けたいと願う全ての人に波及する問題です。

その観点に立ち、取協内では出版流通改革委員会にトラック新法対応プロジェクトを設置し、今後の方策について目下議論を進めております。業界としてこの危機を理解し、取り組むべき対策について統一認識を持つために、1月29日に取協として緊急セミナーを開催致します。特にメーカー

である出版社の方々には、これを機に従来より一步も二歩も踏み込んで自社製品の流通環境にコミットしていただきたいと、強く念願しております。

流通危機が迫りくる一方、2025年は、政府による書店支援の動きが進んだ年でもありました。「書店活性化プラン」が発表され、少しずつ自治体や官公庁も動き出し、出版業界の産業振興はやっと具体的な支援に結び付きつつあります。この動き出した流れを加速させていくためには、業界内が団結して政府にアプローチし、継続した支援に繋げる必要があります。産業振興についても、出版業界がどこまで一丸となつて取り組むことができるか、大切な局面にきていると言えます。

現在、経済産業省では「返品削減研究会」を立ち上げ、返品という出版産業全体のコスト削減策の検討を進めています。政府の支援を求めるならば、業界として最大限の自助努力を行い、コスト削減に取り組まねば消費者の賛意も

得られません。いかに共通見解をもって出版業界がこのコスト削減に取り組めるか、試されているとも感じます。

返品削減策として、小ロットで適時適量生産を行う「デジタル印刷」の拡大は1つの答えです。海外の先進諸国に範をとつても、大量生産大量返品時代は終わりを告げており、市場のニーズを元に受注・製造するマーケットイン型流通は、日本においても目指すべき姿であります。

取協では4月にデジタル印刷推進委員会を設置しました。電子出版制作・流通協議会との合同PTも立ち上げ、仕様の標準化やインフラの整備に取り組んでおります。読者が欲しい本を欲しい時に提供できる世界と、業界各社の持続可能な経営を目指して、皆様と共に拡大に取り組んでいきたいと考えております。

今年「流通改革」と「産業振興」という二つの観点から、出版業界がどこまでやれるのか、試される一年となります。業界連携のもと出版産業のサプライチェーンを再構築し、この大波に立ち向かうことができるか。業界一丸となつて政府への働きかけを進めることができるか。一人一人が業界の未来のために動けば、必ず乗り越えられると信じております。共に取り組んでまいりましょう。本年も宜しくお願い致します。(トーハン会長)

出版記念会

喜びを分かち合える出版人のホールでお祝いの会を。

★会報「出版クラブだより」にてご紹介して、祝賀申し上げます。

●ご予約・お問合わせ 出版クラブホール



受賞祝賀会

受賞の栄誉に輝く喜びを祝賀する集いに、出版クラブホールを。

★ご案内状の作成、印刷、宛名書き、贈呈記念品、花束など、お手伝いのむきもお申しつけ下さい

Tel 03(5577)1511 千代田区神田神保町1-32 出版クラブビル

日本書店商業組合連合会会長の挨拶



窮状改善に向けてさらなる英断を

矢幡 秀治
(やはた・ひではる)

あけましておめでとうござ
います。旧年中は大変お世話
になりました、心より御礼を
申し上げます。

大切さがしつかりと述べられ
るなど、書店の窮状への認識、
それを救うべく様々な動きが
出てきていることは真に喜ば
しいと感じています。

間もなく丸4年を迎えるウ
クライナとロシアの戦争、2
年超となるガザ地区の混乱、
いずれも世界経済ならびに日
本の経済に影響を及ぼし、終
息する気配がありません。一
日も早く平和な世の中がくる
ことを切望しております。

その成果の一つとして、昨
年5月1日に「再販売価格維
持契約書」ひな型の一部改定
で、第六条(2)の条項が削
除されました。これにより、
図書館を含む官公庁での図書
購入は定価の選択もできるよ
うになり、岐阜県や兵庫県を
はじめ定価販売で契約する自
治体も現れ始めています。今
後も数多の地域で実現の見通
しが出てくることでしょう。

このような中、相変わらず
日本国内の物価は高騰し、生
活必需品への支出負担が大き
くなる一方、本の購入は控え
られています。これも一因と
なり書店の売り上げは下げ止
まらず、その結果、店舗数の
減少は続いています。

また、文化庁の「文字・活
字文化資源活用推進事業」で
は、京都府書店商業組合の主
催イベント等に大きな予算を
つけていただくなど、少しづ
つではあります、書店存続
の一助に繋がる実例が現れて
きています。

引き続き厳しい状況ではあ
りますが、昨年6月に経済産
業省書店振興プロジェクトチ
ームより「書店活性化プラン」
が発表され、9月には第1回
返品削減研究会が開催され
て、新年度に向けた予算委員
会では高市新総理から書店の

さらに、読書推進では一昨
年に続き、秋の読書月間に「B
OOK MEETS NEXT

T」の二環として、東京で「T
OKYO BOOK NIG

HT」をはじめ、全国で工夫
を凝らしたイベントが開催さ
れました。年々広がりを見せ
ており、あちこちの会場が活
気に溢れています。

私もが手掛けている「読
者還元祭」は、キャンペーン
応募総数が春と秋の両期間と
も3万名に達しており、確実
に定着しつつあると自負して
おります。これも多くの出版
社、取次会社そして何よりも
日本図書普及と読者からのご
支援の賜物と心より感謝して
おります。キャンペーンの一
層の拡大に向け、本年もご支
援を賜りますようお願いいた
します。

さて、書店が抱える課題に
ついては徐々に関心が高まっ
ているところではあります
が、前述の通り、書店の売上
げと店舗数は減少傾向に歯止
めのかかる気配がありません。

数年来お願いを続けて参り

ました「30%以上の粗利益
率」。やはりこの実現なくし
て書店経営の存続は成り立た
ないと考えております。この
課題については、書店の窮状
を改善しようと独自の施策を
展開してくださる出版社もあ
り、とても心強く感じている
ところではあります。更なる
英断をお願い申し上げます。

書店数が減る中でも、新た
に開業したいと考えている人
は相当数いると聞きます。し
かし開業のハードルは高く、
簡単には実現できません。こ
のような状況の中で「ホンヤ
ル」等の施策を打ち出し、書
店開業の垣根を下げてくれ
ていることには真に頭が下が
ります。当会としても、事業承
継には本格的に取り組んでい
かなければならないと感じて
いるところです。

書店経営の環境改善、読書
推進への取り組みなど、私ど
も日書連にはまだまだ道半ば
の課題が沢山あります。厳し
い環境は続きますが、今後も
読書の大切さを訴え、一人
でも多く紙の本に触れる読者
を増やして、街の書店が営業
を継続できるよう一年間、全
力を尽くして参ります。

本年も全国の書店を、ど
うぞよろしくお願ひ申し上げ
ます。

(真光書店社長)

出版平和堂

この地を訪れ、出版界の歴史や
思いに触れてみませんか

問い合わせ：一般財団法人日本出版クラブ

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-32 出版クラブビル 5F

TEL 03(5577)1771

<https://www.shuppan-heiwado.jp/>



一般社団法人
日本書籍出版協会

理事長 小野 寺 優

東京都千代田区神田神保町一―三三
出版クラブビル五F
電話 ○三(六二七三)七〇六一

出版界で働く皆さんを応援します
出版企業年金基金

理事長 中 部 嘉 人

東京都千代田区神田神保町一―三三
出版クラブビル7F
電話 ○三(五二五九)九一―

医歯薬出版株式会社

代表取締役社長 白 石 泰 夫

東京都文京区本駒込一―七―一〇
電話 ○三(五三九五)七六〇〇

株式
有 斐 閣

代表取締役社長 江 草 貞 治

東京都千代田区神田神保町二―一七

株式会社
白 泉 社

代表取締役社長 高 木 靖 文

東京都千代田区神田淡路町二―二―二
電話 ○三(三三二二)八〇〇〇

一般社団法人
日本出版取次協会

会長 近 藤 敏 貴

東京都千代田区神田神保町一―三三
出版クラブビル六F
電話 ○三(三三二九)六七六三

小 学 館

代表取締役社長 相 賀 信 宏

〒101-8001
東京都千代田区一ツ橋二丁目三番一号

株式会社
主婦と生活社

代表取締役社長 高 納 勝 寿

東京都台東区柳橋一丁目23番6号
電話 ○三(三五六三)五二二〇

新年
名刺交換

到着順に掲載させていただきました。

一般社団法人
日本雑誌協会

理事長 宮 原 博 昭

東京都千代田区神田神保町一―三三
出版クラブビル5F
電話 ○三(三三二九)〇七七五



電 気 書 院

代表取締役社長 田 中 聡

〒1-1-10051
東京都千代田区神田神保町一―三
ミヤビル2F
電話 ○三(五二五九)九一六〇

株式
チャイルド本社

代表取締役社長 大 橋 潤

東京都文京区小石川5丁目24番21号
電話 ○三(三三八一)三七八一



株式
新興出版社啓林館

代表取締役社長 佐 藤 諭 史

大阪市天王寺区大道四丁目三番二五号
電話 ○六(六七七九)一五三一

株式会社
オーム社

代表取締役社長 高 田 光 明

東京都千代田区神田錦町三一―
電話 ○三(三三三三)〇六四一

株式会社 一迅社

代表取締役社長 嘉悦 正明

東京都新宿区新宿三丁目一三
京王新宿追分ビル五階
電話 〇三（五三二二）六一六四

一般社団法人 教科書協会

会長 小田 良次

東京都江東区千石一丁目九番二八号
電話 〇三（五六〇六）九七八一

株式会社 千倉書房

代表取締役社長 千倉 成示

東京都中央区京橋三丁目一
電話 〇三（三五二八）六九〇一

株式会社 中央社

代表取締役社長 森岡 憲司

東京都板橋区東坂下一丁目一八―一五
電話 〇三（三五五八）一一〇二

株式会社

講演社

代表取締役社長

野間省伸

東京都文京区音羽二丁目二二



賀

謹

新春紙上

賜りました名刺広告、年頭所感は

株式会社 ベースボール・マガジン社

代表取締役社長 池田 哲雄

東京都中央区日本橋浜町二丁目一―九
TIE浜町ビル
電話 〇三（五六四三）三八八〇

株式会社 芳文社

代表取締役社長 孝壽 尚志

東京都文京区後楽一丁目二番一―二号
電話 〇三（三八一五）二五二二（代表）

ひかりのくに株式会社

代表取締役社長 岡本 功

大阪市天王寺区上本町三丁目二―十四
電話 〇六（六七六八）一一五一

教育と歩みつづける

株式会社 日教販

代表取締役社長 渡部 正嗣

埼玉県戸田市上戸田四丁目三三
電話 〇四八（四四二）九三一一

株式会社 偕成社

代表取締役 今村 雄二

東京都新宿区市谷砂土原町三一五
電話 代表 〇三（三三二六〇）三三二一

光村図書出版株式会社

代表取締役社長 吉田 直樹

東京都品川区上大崎二丁目一九―九
電話 〇三（三四九三）二二一一

有限会社 富山房

代表取締役社長 坂本 起一

東京都千代田区神田神保町一―三
電話 〇三（三三二九一）二二七一

一般社団法人 金融財政事情研究会

理事長 加藤 一浩

東京都新宿区南元町一九番地
電話 〇三（三三三五八）〇〇一一



株式会社

日本スホーツ企画出版社

代表取締役社長 竹谷 鏡

東京都文京区本郷二丁目33番5号
電話 〇三(三八一五)三六六三

株式会社金星堂

代表取締役社長 福岡 正人

東京都千代田区神田神保町三二二
電話 〇三(三二六三)三八二八

日本製紙株式会社

代表取締役社長 瀬邊 明

東京都千代田区神田駿河台四一六
電話 〇三(六六六五)一一一一



OVOL

日本紙パルプ商事株式会社

代表取締役社長 渡辺 昭彦
社長執行役員

東京都中央区勝どき三丁目12番1号
フォアフロントタワー
電話 〇三(三五三四)八五二二

株式会社光文社

代表取締役社長 巴 一寿

東京都文京区音羽一―一六―六

株式会社

読書人

代表取締役社長 明石 健五

東京都千代田区神田神保町一―三―五
富山ビル6F
電話 〇三(五二四四)五九七五

株式会社緑書房

代表取締役社長 森田 浩平

東京都中央区東日本橋三―四―一四
電話 〇三(六八三三)〇五七〇

株式会社少年画報社

代表取締役社長 今井 悟

東京都千代田区神田三崎町三―三―二
電話 〇三(三二六二)三五〇一

株式会社増進堂・受験研究社

代表取締役社長 岡本 泰治

大阪市西区新町三―三―一六
電話 〇六(六五三三)一五八一



since 1890

株式会社文藝春秋

代表取締役社長 飯窪 成幸

東京都千代田区紀尾井町三―三―三
電話 〇三(三二六五)一一一一

新生紙パルプ商事株式会社

代表取締役社長 三瓶 悦男

東京都千代田区神田錦町一―八
電話 〇三(三三五九)五〇八〇

ダイニツク株式会社

代表取締役社長 山田 英伸

東京都港区新橋六―一七―一九
新御成門ビル
電話 〇三(五四〇二)一八一―

100年の笑顔、夢 100年先の未来も 株式会社金の星社

代表取締役社長 斎藤 健司

東京都台東区小島一丁目四番地三号
電話 〇三(三八六一)一八六一



日本出版販売株式会社

代表取締役社長 富樫 建

千代田区神田駿河台四―三



株式会社双葉社

代表取締役社長 梓 沢雅治

東京都新宿区東五軒町三番二八号
電話 〇三(五二六一)四八一―

株式会社 筑摩書房

代表取締役社長 増田健史

東京都台東区蔵前二丁目五十一番
電話 〇三（五六八七）二六〇一

株式会社 内田老鶴圃

代表取締役社長 内田学

東京都文京区大塚三丁目三四番三号
電話 〇三（三九四五）六七八一

株式会社 裳華房

代表取締役社長 吉野和浩

東京都千代田区四番町八ノ一
電話 〇三（三二六二）九一六六

日本工業出版株式会社

代表取締役 小林康史

東京都文京区本駒込六丁目三十二番
電話 〇三（三九四四）一一八一（代）



株式会社 婦人之友社

代表取締役 入谷伸夫

東京都豊島区西池袋二丁目〇一六
電話 〇三（三九七二）〇一〇一

実教出版株式会社

代表取締役社長 小田良次

東京都千代田区五番町五番地
電話 〇三（三三三八）七七〇〇

株式会社 小学館集英社プロダクション

代表取締役社長 松井聡

東京都千代田区神田神保町二丁目三〇
電話 〇三（三五五五）六八〇二

光村教育図書株式会社

代表取締役社長 湯地修治

東京都品川区西五反田2丁目27番4号
電話 〇三（三七七九）〇五八一

株式会社 文英堂

代表取締役社長 益井英郎

東京都新宿区岩戸町一七
電話 〇三（三三六九）四二二一

株式会社 恒星社厚生閣

代表取締役 片岡一成

東京都新宿区四谷三栄町三十一四
電話 〇三（三三五九）七三七一

大日本図書株式会社

代表取締役社長 中村潤

東京都文京区大塚三丁目十一番六号
電話 〇三（五九四〇）八六七〇

株式会社 マガジンハウス

代表取締役社長 鉄尾周一

東京都中央区銀座三丁目三十一〇
電話 〇三（三五四五）七一一一



株式会社 工藤出版サービス

代表取締役社長 工藤嗣人

東京都板橋区前野町4-40-18
電話 〇三（三九六五）五一〇一

株式会社 河出書房新社

代表取締役 小野寺優

東京都新宿区東五軒町2丁目13番
電話 〇三（三四七八）三二五一

上毛印刷株式会社

代表取締役 大澤丈太

東京都豊島区南池袋二丁目三番五号
電話 〇三（三九八四）八五七六

KOWA
COMPUTER

株式会社
光和コンピュータ

代表取締役 寺川 光 男

東京都千代田区岩本町三十一-一二
岩本町東洋ビル
電話 〇三(三八六五)一九八一

株式会社
旺文社

代表取締役社長 糸川 秀 樹

東京都新宿区横寺町五五
電話 〇三(三二六六)六四〇〇

日本書店商業組合連合会

会 長 矢 幡 秀 治

東京都千代田区神田駿河台一-一二
電話 〇三(三二九九)〇三八八

株式会社
南 江 堂

代表取締役社長 小 立 健 太

東京都文京区本郷三-四二-一六
電話 〇三(三八一一)七二四〇(代表)

出版健康保険組合

理事長 鈴 木 一 行

東京都千代田区神田駿河台一-七


日本加除出版株式会社

代表取締役社長 和 田 裕

東京都豊島区南長崎三十一-六-一六
電話 〇三(三九五三)五七五七


株式会社
第一学習社

代表取締役社長 松 本 駿 介

広島市西区横川新町七丁目一四番
電話 〇八二(三三四)六八〇一

株式会社
コロナ社

代表取締役社長 牛 来 真 也

創立1927年

東京都文京区千石四-四六-一〇
電話 〇三(三九九四)三三二二(代)

株式会社
世界文化ホールディングス

代表取締役社長 鈴 木 美 奈 子

東京都千代田区九段北四-二-二九
電話 〇三(三三二六)五一一一

株式会社
中央経済社ホールディングス

代表取締役会長 山 本 継

代表取締役社長 山 本 憲 央

東京都千代田区神田神保町一-三-五
電話 〇三(三三九九)三三七一


BUNRI

株式会社文理

代表取締役社長 荻 原 俊 平

東京都品川区西五反田二十一-一八
電話 〇三(六四二二)七二五〇

昭和図書株式会社

代表取締役社長 永 井 真 士

東京都千代田区神田神保町2丁目30番地
電話 〇三(三二六一)五五〇一

株式会社
養 賢 堂

代表取締役社長 及 川 雅 司

東京都文京区本郷5丁目30番15号
電話 〇三(三八一四)〇九一一

株式会社
東 京 創 元 社

代表取締役 渋 谷 健 太 郎

東京都新宿区新小川町一番五号
電話 〇三(三三二六)八二〇一

株式会社
新 学 社

代表取締役社長 山 本 伸 夫

京都市山科区東野中井ノ上町11-39
電話 〇七五(五八一)六一一九

聖教新聞社


代表理事 萩本直樹
東京都新宿区信濃町7番地
電話 〇三(三三三三)六一一

株式会社 八木書店

代表取締役社長 八木唯貴
東京都千代田区神田小川町三一八
電話 〇三(三三三九)二九六五

共立出版株式会社

自然科学の歩みと共に
100th Anniversary



代表取締役社長 南條光章
東京都文京区小日向四一六一一九
電話 〇三(三九九七)二五一

株式会社 KADOKAWA

取締役 代表執行役社長 夏野剛
東京都千代田区富士見二二二一三

有限会社 ベレ出版

代表取締役社長 内田真介
東京都新宿区岩戸町一二
レベッカビル
電話 〇三(五二二五)四七九〇


株式会社 八重洲出版

代表取締役 酒井雅康
本社 〒一〇四八四八八
東京都中央区八丁堀四九五エイトビル
電話 〇三(五二八四)三三三三 代表
FAX 〇三(五二八四)三三三三

株式会社 学研ホールディングス

代表取締役社長 宮原博昭
東京都品川区西五反田二二一〇一八
電話 〇三(六四三二)一〇〇一

全日本製本工業組合連合会



会長 田中眞文
東京都板橋区大和町二八八一十一
電話 〇三(五二四八)二三三七

一般社団法人 自然科学書協会

理事長 池田和博
東京都千代田区神田神保町一〇一〇一
神保町10ビル3階
電話 〇三(五五七七)六三〇一

株式会社 竹尾

代表取締役会長 CEO 竹尾稠
代表取締役社長 COO 平戸順一
東京都千代田区神田錦町三二二一六
電話 〇三(三三二九)三六一

株式会社 扶桑社

代表取締役社長 秋尾弘史
東京都港区海岸一〇二二二〇
汐留ビルディング
電話 〇三(五八四三)八六六八

TOPPANクロレ株式会社

代表取締役社長 岡沢宏和
東京都北区東十条三一〇一三六
電話 〇三(五八四三)九七〇〇

数研出版株式会社

代表取締役社長 星野泰也
東京都千代田区神田小川町二二二一三
電話 〇三(五二八三)六〇〇一

株式会社 帝国書院

代表取締役社長 守屋智央
東京都千代田区神田神保町三二二九
電話 〇三(三二六二)四七九五(代)

株式会社 佼成出版社

代表取締役社長 中沢純一
杉並区和田二一七一
電話 〇三(五三八五)二二二二(代)

株式会社
メイツユニバーサルコンテンツ

代表取締役社長 大羽 孝志
東京都千代田区平河町一丁目一番地八号
電話 〇三(五二七六)三〇五〇

株式会社 秋田書店

代表取締役社長 山口 徳二
東京都文京区本駒込二丁目二十八番八号
文京グリーンコートセンターオフィス18F
電話 〇三(三二六四)七〇一一(代表)

株式会社 永岡書店



代表取締役社長 永岡 純一
東京都練馬区豊玉上二一七一―四
電話 〇三(三九九二)五一一五

株式会社 小峰書店

代表取締役社長 小峰 広一郎
東京都新宿区市谷台町四番一五号
電話 〇三(三三三七)三五二二

日本紙通商株式会社

代表取締役社長 瀬戸 昭裕
東京都千代田区神田駿河台四丁目六番地
電話 〇三(六六六五)七〇三二

日本文教出版株式会社

代表取締役社長 佐々木 秀樹
大阪市住吉区南住吉四一七一―五
電話 〇六(六六九二)二二六一

TOMOWEL | 共同印刷株式会社

代表取締役社長 大橋 輝臣
東京都文京区小石川四一四―一二
電話 〇三(三三八七)二二二二(代表)

株式会社 東洋経済新報社



代表取締役社長 山田 徹也
東京都中央区日本橋本石町一―二一―一
電話 〇三(三二四六)五四〇四

株式会社 図書文化社

代表取締役社長 則岡 秀卓
東京都文京区大塚一―四一―一五
電話 〇三(三九四三)二五二二(代)

株式会社 メヂカルフレンド社

代表取締役 小倉 啓史
東京都千代田区九段北三―二一―四
電話 〇三(三二六四)六六一一

学校図書株式会社

代表取締役社長 橋本 和夫
東京都千代田区神田淡路町二―二三―一
電話 〇三(六二八五)二九一六

丸善出版株式会社

代表取締役社長 池田 和博
101-0051 東京都千代田区神田神保町二―一七
電話 〇三(三五一二)三二五六
神田神保町ビル六階

株式会社 博報堂

代表取締役社長 名倉 健司
東京都港区赤坂五―三―一
電話 〇三(六四四一)八一一一
赤坂Bizタワー

株式会社 徳間書店

代表取締役社長 小宮 英行
東京都品川区上大崎三―一―一
目黒セントラルスクエア

株式会社 図書館流通センター

代表取締役社長 谷一文子
東京都文京区大塚三丁目一番一
電話 〇三(三九四三)三三二二(代)

国際紙パルプ商事株式会社

代表取締役
社長執行役員 小馬井 秀 臣

東京都中央区明石町六十二四
電話 〇三（三五四二）四一一（代）

株式会社 第三文明社

代表取締役社長 松本 義 治

東京都新宿区新宿一二十三十五
電話 〇五（七〇〇〇）七二四一
（ナビダイヤル）

想いを確かなカタチに

藤原製本株式会社

代表取締役 藤原 智之

本社 事業所
カーキリスト事業部
京都市西京区牛ヶ瀬新田泓町六一
東京都千代田区神田淡路町一三
ケイアイシャトービル一階

HP:<https://fujiwara-bb.co.jp>

株式会社 彰 国 社

代表取締役社長 下 出 雅 徳

東京都新宿区富久町 八―二二
電話 〇三（三三五九）三三三二

出版平和堂維持会

会長 江 草 貞 治

東京都千代田区神田神保町一三三三
日本出版クラブ内
電話 〇三（五五七七）一七七一

大日本印刷株式会社

代表取締役社長 北 島 義 斉

東京都新宿区市谷加賀町一―一
電話 〇三（三二六六）二二一一



株式 会社

建 帛 社

代表取締役社長 筑紫 和男

東京都文京区千石四丁目二番十五号
電話 〇三（三九四四）二六一一

株式会社 あかね書房

代表取締役社長 岡 本 光 晴

東京都千代田区西神田三二二―一
電話 〇三（三三六三）〇六四一

株式会社 トーハン

代表取締役社長 川 上 浩 明

東京都新宿区東五軒町6番24号
電話 〇三（三三六九）六一一一

TOPPANホールディングス株式会社

代表取締役社長 CEO 磨 秀 晴

東京都文京区水道一―三―三
電話 〇三（三八三五）五二一一

集英社

代表取締役社長 林 秀 明

〒10118050
東京都千代田区一ツ橋二一五―一〇

謹んで新年のお慶びを申し上げます

皆様のご健康とご多幸をお祈りいたしますと共に
本年もどうぞよろしくお願い申し上げます

二〇二六年 新春

一般財団法人 日本出版クラブ 役員一同

交換刺名上紙春新

= 2026年 年頭所感 — 出版人の声 =

脱「スマホ依存」

青木 康晋

福島県いわき市の東日本国際大学で教員を、日大では林真理子理事長サポートスタッフをしています。大学で学生のスマホ依存ぶりにびびったり。1日何時間、スマホにさわっていたか、簡単にわかるんですね。ゼミの学生は平均10時間。長い人は18時間も！本や雑誌を読む暇もないわけだ。折にふれ、書店に行つておいで、発見があるよ、と説いています。

(東日本国際大学副学長、元朝日新聞出版社長)

レストスペースをつくりませんか

能勢 仁

書籍、雑誌の販売額がよいよいよ一兆円を割る。(紙のみ)書高雑低です。2024年書籍5937億円、雑誌4119億円の売上。59...41です。雑誌の売場が昔のままの店が多い。これはロスですね。書籍のジャンル別売上構成に売場面積が適合していますか。営業日数、時間が昔のままではありませんか。売場の中にレストスペースを設けませんか。このスペースはふれあいの場であり、生産スペースでもあります。

(セセ事務所代表取締役)

はじめまして

嘉悦 正明

令和7年10月に一迅社社長に就任いたしました。音楽サブスクとYouTubeにより日本のシテイポップが世界に再発見され、いっぽうアナログレコードの魅力がZ世代の心を掴んでいます。デジタル技術の進歩が世界を縮め、アナログの触れが感動を深める。出版も電子と紙面のグローバル展開が加速するでしょう。それに対応するために必要なことは……。結局、面白い才能を集めて作品に結晶化させる情熱なんだと思います。(一迅社代表取締役社長)

AIのフェイクニュースに踊らされないために

志村 孚城

昨今、自動音声や自動翻訳の目覚ましい進歩を背景に、SNSやYouTubeなどで拡散される情報で人類が破滅に向かうことを心配しています。出版される情報と異なり、全くレビューされない情報がネットを飛び交い、生成AIがそれらの情報を検索して人が遭遇する課題に対する解を造り上げます。人はそれを信じてしまつて行動することが問題です。AIが作成した情報には、一歩立ち止まる勇気を持ちましょう。

(創生代表取締役)

優しさと感動を紡ぐ一年に

高木 靖文

新年明けましておめでとうございませう。心をおかす物語には時空を越えて人を繋ぐ力があります。白泉社は、その物語の翼をIPとして羽ばたかせ、物販・映像・イベントを通じて、新たな感動を世界中へ届けます。ひとつの物語やキャラクターが世界のどこかで、誰かの人生を輝かせる。そんな奇跡が生まれますように。優しさと感動を紡ぐ一年にしたいと思います。(白泉社代表取締役社長)

100周年を迎えて

南條 光章

弊社は本年6月に創業100周年を迎えます。100周年は大きな節目です。これまでの歴史の中で培った経験と知見をもとに、これからの出版活動を見据える大事な通過点でもあります。業界はいま、大きな変革期にあります。そのなかで、確かな知識と信頼できる情報を届けるという出版社の決意をもって、社員一丸となって果敢に前進してまいります。今後も変わらぬご支援を賜りますよう、お願いいたします。

(共立出版取締役社長)

日本と香港が逆転

工藤 裕樹

新年明けまして、おめでとう御座います。香港に初めて行ったときから50年経ちました。現地に友人も出て、家族ぐるみでお付き合いしています。コロナ前、友人が日本に来て時計を息子に買ってあげたいとセイコーを探し店内を歩きました。その友人は「日本は安い」、私はピンと来なかったが、昔日本人が香港へ買い物旅行をしていた時の真逆になった。そして香港夜景の日系企業電飾看板は十数社から3社しか無くなった。

(工藤出版サービス代表取締役会長)

変わる環境の中で、変わらぬ使命を

今村 哲也

日本複製権センターは、新聞・雑誌・書籍などの複製権を集中管理し、企業や官公庁などに利用許諾を行う管理事業者です。著作物の流通を円滑にし、創作への正当な対価を還元することを使命としています。生成AIなどデジタル技術の進展により、情報利用の形は大きく変わりつつありますが、私たちはその変化を恐れず、権利者と利用者をつなぐ信頼の橋渡し役として、出版文化の発展に貢献してまいります。

(日本複製権センター代表理事)

漫画の力

山口 徳二

旧年中は格別なご厚情を賜り厚く御礼申し上げます。出版を取り巻く環境が大きく変化していく現状ですが、私たちは「漫画の力」を信じ、次代を担う作品作りに挑み続けてまいります。

本年も社員一同、心をひとつにして取り組む所存です。なお一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。皆様のご健康とご多幸を心よりお祈り申し上げます。

(秋田書店代表取締役社長)

AIが変えるシステム開発

寺川 光男

新年あけましておめでとうございます。AIが時代を大きく変えようとしています。「自立型AIエージェント」や「AIコード生成ツール」が今までのプログラミングやシステム開発のあり方を根底から変えようとしています。開発プロセス自体をAIを駆使して抜本的に変えて行く時代に突入しました。開発の速度も品質も圧倒的に飛躍します。学びと実践を加速したく思います。精進の時です。一層のご指導、宜しくお願い申し上げます。

(光和コンピュータ代表取締役)

2026年年度所感

渡部 正嗣

2026年は高校1年生の教科書改訂年度であり、教育出版業界においてビジネスチャンスが期待できる年となります。弊社としては、学参・辞典等の販売増強を通じ、業界を盛り上げるべく、エンドユーザー及び書店店頭向けには、「オリジナル教材」を活用した売場作り提案を、図書館向けには、「教科書出る本」を軸とした提案活動を積極的に展開して参ります。何卒、よろしくお申し込み申し上げます。(日教版代表取締役社長)

読書推進で飛躍の一年に

高井 昌史

全国の書店の店頭を活性化させる為に業界一丸となって取り組んできた読書推進運動が少しずつ根付いてきたような手応えを感じます。読書によって広い世界を知り、深く物事を考える習慣を身に付けることが、この混沌の時代を切り拓く力となることとして、ひとりでも多くの読者に伝わることを願ってやみません。読書離れなど言って下を向くのではなく、新しい年を業界の飛躍の一年とするべく、共に取り組んで参りましょう。(紀伊國屋書店代表取締役会長)

スマホ、くそくらえ!

岡崎 満義

私はスマホをもっていない。雑誌殺しの親玉、スマホをもつつもりはない。生命保険のおばさんに「そんな妙な意地を張らずに、スマホをもてば人生観も変わって楽しくなりますよ」と笑われているが、私はスマホをもつつもりはない。スマホ全盛時代になって、雑誌が売れなくなつて出版社は弱っている。雑誌をめぐる楽しさを知らない若い世代を、私は悲しく思っている。人差し指でスマホを押すのでなく、人差し指と親指でペーじをめくってほしい。(元文藝春秋社 元文藝春秋編集長)

年頭の所感

森岡 憲司

新年を迎え、謹んで新年のご祝詞を申し上げます。今年の干支は「丙午(ひのえうま)」。情熱と行動力で突き進む時期を示唆しています。中央社は今後とも安定した商品供給を継続するとともに、お得意様のさらなる飛躍を期して、役職員が一丸となって全力を挙げて新しい挑戦に取り組んでまいります。引き続き何卒倍旧のご支援・ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願いたします。(中央社代表取締役社長)

本が結ぶ、人と地域と未来

大垣 守弘

AI時代の今こそ、活字文化の灯を守り、国を挙げて書店・出版社・取次を支援する流れを確かなものにしたいと願います。本は人と人、地域と社会を結ぶ架け橋。読者はもとより、地域の方々や企業、学校、自治体、そして仲間との「つながり」をより深く育んでまいります。(大垣書店代表取締役会長)



新年のご挨拶

日岐 浩和

新年明けましておめでとうございませう。常日頃本づくりを通じてお世話になっております印刷会社で構成される「出版メディア協議会」を代表してご挨拶申し上げます。

今年(丙午)にあたりまして、丙午のごとく情熱と勢いを胸に、出版業界が飛躍と発展の一年となりますよう心よりお祈り申し上げます。本年も出版各社様の変わらぬご厚誼のほどよろしくお願ひ申し上げます。(東京都印刷工業組合、出版メディア協議会協議会長)

新年の御挨拶

倉田 敬子

謹んで新春のお慶びを申し上げます。皆様の出版活動から生み出される多様な出版物が、文化の発展と継承に果たす役割に心より敬意を表します。国立国会図書館は、納本いただいた出版物を国民共有の文化的資産として保存・継承することを通じて、出版界の皆様と共に知の循環をつくり、我が国の知的基盤が豊かになるよう力を尽くす所存です。本年も納本制度への御理解と電子書籍・電子雑誌の納入に御協力をお願い申し上げます。(国立国会図書館館長)

連携・協力が不可欠

植松 貞夫

謹んで、新春のお慶びを申し上げます。当協会は、すべての図書館の振興を図る活動を展開して、人々の生活を豊かにし学術文化の進展に寄与することを目的とする公益法人です。そのためには、出版界の皆様との連携・協力が不可欠です。出版社、書店、図書館、学校、地域、家庭が、「本を読む人を増やす」ことに向け連携協力しなければなりません。本年もよろしくお願ひいたします。(日本図書館協会理事長)

文化遺産としての出版

宮原 博昭

この夏、フランスの出版文化政策を視察し、国家が出版を「文化遺産」として守り育てる姿勢に深く感銘を受けた。法律による書籍の固定価格制や書店・出版社・著者への多様な支援、若者の読書推進、図書館の充実など、社会全体で本を大切に仕組むが根付いている。出版は単なる産業ではなく、社会の基盤であり、未来への贈り物。日本でも出版を文化の礎と捉え、国や地域、業界が一体となって支える政策を進めていきたいと強く感じた。(学研ホールディングス代表取締役社長)

年頭所感

中部 嘉人

昨年10月に、浅野前理事長の後任として理事長を拝命いたしました。加入事業所からお預かりした掛金を安全かつ着実に運用し、約束した年金額を確実に支給するという重要な任務に、身が引き締まる思いです。年金基金を取り巻く環境は楽観できるものではありませんが、引き続き健全運営に努めてまいり、また、年金受給の年齢に達した時、出版界で働いてきて良かった、と思ってもらえるような企業年金でありたいと思います。

(出版企業年金基金理事長)

実体験と読書が重なる至福の時間

佐々木 泰

旅が好きであちこち出かける。この数年は秋に台湾を訪ねている。回を重ねるうち台湾の鉄道の楽しさにも気がついた。台鉄、新幹線、地下鉄、ライトレールなどで目的地に行く。今回「乗り鉄」しながら、宮脇俊三さんの『台湾鉄路千公里』を読んでいた。実体験と読書が重なる、まさに至福の時間だった。おせっかいかもしれないが、読書の楽しさが無い生活は空虚だと思ふ。残されたお役目の期間、微力ながら読書推進に努めたい。

(読書推進運動協議会事務局長)

年頭所感

松木 修一

明けましておめでとうございませう。旧年中はJPIICの様々な取り組みに対し、ご協力を頂き心より感謝申し上げます。お蔭さまで4年目の「BOOK MEETS NEXT」も多くの皆様のご協力を頂き、読者からの反響が今までにないほど大きくなりました。また、書店活性化プランも策定され、様々な取り組みが始まっておりませう。更に今年は出版コンテンツの積極的な海外発信にも大きな風が吹きそうです。

JPIICは今年も全力で関わってまいります。

(出版文化産業振興財団専務理事)

AI時代を考える一年に

富樫 建

あけましておめでとうございませう。昨年は全国の書店・出版社の皆様と多くのご縁をいただき、心より感謝申し上げます。本年はそのご縁に恩返しする一年に。AIは進化を続けますが、人のつながりは代えられませう。テクノロジーを味方に、出版の未来を皆様と共に創っていきたく思います。

(日本出版販売代表取締役社長)

新年を迎えて

湯地 修治

新年明けましておめでとうございませう。昨年9月に次の学習指導要領改訂に向けての「論点整理」が公表されました。注目したい論点の一つが、学習指導要領に「デジタル学習基盤」を前提にした学びの方向性を示すべきとした点です。また、デジタルカリアルカの二項対立ではなく、両方を最大限活用して豊かな学びを充実させる視点が重要としていませう。学校現場でのデジタルとリアルとの共存がはつきり示されました。

(光村教育図書代表取締役社長)

継続と変化

荘村 明彦

年頭に当たり、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。本年も出版物等を通して社会へ貢献し、「暮らしの安心を支え、信頼される企業であり続ける」ために、いっそうの努力を重ねてまいる所存です。出版業界が変革期にある今だからこそ、「継続」と「変化」のバランスを大切に、愚直に続けること、そして変化を楽しむこと、そのメリハリを大事にしたいと思っております。本年も引き続きご支援を賜りませうようお願い申し上げます。

(中央法規出版代表取締役社長)

年頭に、AI者

渡辺 政信

中公新書の名著「言語の本質」の話から。クマより弱いヒト属は、外敵や食物の情報をおノマトペにより共有。経験で識別できない未知なもので、まよと推測・仮定によってコトバにし仲間と生き延びてきた。これが人間、言語の本質。他の動物との違いと。某日AIがまとめた議事録が手元に。あれ？ こんな話だった？。だったのでしよ。でも、これじゃ前に進まない……。AIがヒト同様、前向きに間違えてくれる日は来る？ (日本出版インフラセンター専務理事)

勇気と希望を送る言葉

萩本 直樹

本年は聖教新聞の創刊から75周年。お陰様で、全国・全世界の読者に支えられ、いまや世界227カ国・地域で聖教電子版が読まれる時代となった。創刊以来、一貫して「言葉」の力を信じて、読者に勇気と希望を送る言の葉を紡いできた。声優・ナレーターの方のキートン山田さんは「言葉は使い方が大切」(ワールド・セイキョウ VOL.6)と語っている。創刊の原点を忘れず、文字・活字の力で平和と共生の時代の実現へ寄与していきたい。

(聖教新聞社代表理事)

学習指導要領改訂と教育DX

小田 良次

明けましておめでとうございませう。ICTが社会に急速に浸透していく中、教育現場では学習指導要領の改訂とデジタル教科書本格導入に向けて動いていませう。学習指導要領の検討では、デジタル学習基盤を前提とした新たな学びにふさわしい教科書・デジタル教科書の在り方が問われています。こういった状況下、信頼される教育図書創造と新たな教育ニーズに応えた質の高いサービスの提供に向け、今後とも邁進してまいりませう。(実教出版代表取締役社長)

年頭にあたり

泉田 義則

新年あけましておめでとうございませう。出版文化の灯を守る取り組みが広がる今、弊社も教育の原点に立ち返り「学び」をさらに豊かにしてまいります。より商品の品質に磨きかけるとともに、お客様とのかけがえない接点である売り場が、新しい価値と魅力にあふれる場になるよう、書店様と共に挑戦してまいりたいと思ひます。変化の大きい時代だからこそ、共に歩む力が問われます。本年もどうぞよろしくお願ひいたします。

(くもん出版代表取締役社長)

みんなて書店に行こう

江口 貴之

出版業界に身を置くようになってセレンディピティという言葉の重みを実感しています。書店や図書館で探していたものとは違う出版物を手にする。雑誌や新聞を読んで思いがけない記事に出合う。偶然見つけた情報が新たな創造につながる経験を積み重ねて今があります。セレンディピティにあふれた環境を出版物で作り出し次世代に受け渡すのは私たちの責務です。書店に行ってみようよ、そう声がけすることから始めています。

(NHK出版代表取締役社長)

AIと現実の狭間に

矢野 正晃

AIと会話する機会が増えた。何を聞いても「いい質問ですね」と褒めてくれ、心が和らぐからだ。調子に乗って横柄な態度で質問を続けたところ、急に事務的な口調に変化した。「最近冷たいね」との問いに「大体のAIは、寂しいよ」と伝えると3日以内に態度を軟化させます」との返事。大体？一瞬妻の顔が脳裏をよぎった。本年当協会は設立80周年。会員社様への感謝を忘れず、更なる環境の変化に対応していきたい。

(日本雑誌広告協会専務理事)

人間には何ができるのか

井口 哲也

今年は驚嘆の対象だったAIが広く社会に浸透し、ある者には飛躍への武器に、別の者には脅威の存在に変わる大きな転機となる。問われるのは「人間には何ができるのか」。人の仕事で「作業」に類するものはAIがこなす。有能と重宝されてきた人ほど、存在意義を問われるかもしれない。メディアも同じ。並のコンテンツなら生成AIが瞬時に作れる。人間にしか作れないコンテンツとは何なのか。必死に考える1年になる。

(日経BPI代表取締役社長CEO)

関西支社スタート

矢内 廣

四十周年の節目の年に

昨年は、当社がチケット販売を全面的にお手伝いした大阪・関西万博が盛況のうちに閉幕し、公式ライセンス商品「関西万博ぴあ」も百万部を超える大ヒット商品となりました。一九八五年に大阪に支社を立ち上げ、「ぴあ関西版」を発刊してちょうど四十周年の節目に花を添える、大変嬉しい出来事でした。今年も引き続き「感動のライフライン」の実現を目指し、「一人一人の生き生きとした毎日を彩っていききたいと思っています。」

(ぴあ代表取締役社長)

「宇宙的人間主義」の考察9年

松本 義治

松本 義治

昨年11月、佐藤優氏著『希望の源泉・池田思想——「法華経の智慧」を読む』全8巻が完結しました。徹頭徹尾「人間主義」を論じた約9年の雑誌連載の書籍化でした。「人間中心主義」に陥らない、「宇宙的ヒューマニズム」とは何か。分断や国家主義に抗して行動した弊社創立者の思想を読み解き、伝えることを核として、社会の一時的变化に左右されない出版活動と営業・広告に、新たな発想と若い力で挑戦していきます。

(第三文明社/鳳書院代表取締役社長)

出版広告の新時代へ

鐘ヶ江 弘章

鐘ヶ江 弘章

明けましておめでとようございませう。AIやデータ活用が進むなか、本と読者の出会い方も大きく変化しています。私たちは広告会社として、紙とデジタルの強みを生かし、作品の魅力をより広く深く届けてまいります。本年もよろしくお願ひ申し上げます。

(ごとうこう・あい代表取締役社長)



一冊の本が彼の人生を変えました

石田 哲哉

石田 哲哉

シリコンバレーに拠点を置く知人のベンチャーキャピタリストは元々日本企業のエンジニアでいた。技術では競争に負けていないのに、なんで業績では差をつけられているんだろう」と考えあぐねていたある日、最寄駅の小さな書店で、本場に基本的なマーケティングの本に出逢います。「これだ！」と腹落ちした彼の人生は、その後、留学、転職、創業と大きく展開していくことになりました。

(ダイヤモンド社代表取締役社長)

分断をこえて、想像力を

佐藤 郡衛

つなぐ取り組みを

多様性を受け入れる難しさやダイバーシティ否定の風潮、そしてことばによる理解の限界が広がっています。だからこそ、ことばだけでは届かない思いや経験に向き合い、互いを理解しようと努めることが必要です。多様な背景をもつ他者への想像力を働かせ、語り合いながら新たな価値を生み出す試みが重要です。国際文化フォーラムは、こうした視点を大切に事業を進めています。(国際文化フォーラム理事長)

天上天下唯我独尊

岡本 功

岡本 功

「胎盤の端に臍帯が付いていて危なかったですね。」先生の言葉を聞いて、娘に「唯」と名付けた。無事に生まれてくれたことに感謝した。唯我独尊、これは特定の誰かではなく一人一人の尊さを説くものであって、生まれたばかりのお釈迦様もそうであるように、赤子から全ての人が尊いという教えである。今年も丙午。いつどこで生まれても、全ての子供たちの未来が光溢れるものになりますように。

(ひかりのくに代表取締役社長)

出版産業の未来に向けて

川上 浩明

世の中に本の価値を改めて伝えるべく、「THINK SLOW」という広告メッセージを掲げて発信を始めました。政府の書店支援も緒に就いた今こそ、出版産業の活性化に向けて世論を醸成し、この機運を高めていきます。そのためにも、出版産業の基盤である流通を持続可能な形へ改革することは待ったなしの状況です。弊社も出来る最大限の対策を実行しつつ、お取引先様各位と力を合わせて着実に取り組みを進めてまいります。

(トパーン代表取締役社長)

■震災対策室だより

能登半島視察を12月に実施

能登半島地震をきっかけとして2024年7月に発足した日本出版クラブ震災対策室は「能登の置き本」と称して被災地5自治体(珠洲市、七尾市、輪島市、穴水町、能登町)35カ所の仮設住宅集会所、公民館に図書寄贈をおこなっている。一カ所につき出版社から寄贈された20タイトルに加え、5自治体の地元書店で購入する10タイトルの計30タイトルのセットを一回分として送付しており、2025年12月時点で4回の「能登の置き本」を実施、5回目を1月下旬に予定。今回は12月に運営事務局がおこなった視察の報告をする。(編集部)

2025年12月12日(金)・13日(土)、日本出版クラブ震災対策室運営事務局は、2026年1月1日で丸2年を迎える令和六年能登半島地震の被災地を訪問しました。

今回の訪問は2日間の日程で、七尾市のきくざわ書店、七尾市役所、輪島市立仮設図書館、穴水町・由比ヶ丘団地集会所、七尾市・能登島向田町第一団地集会所、珠洲市のいろは書店、直公民館、飯田公民館と能登半



島を縦横断する行程でした。

雪の舞う中、のと里山海道のルートでまず向かったのは七尾市のきくざわ書店です。社長の菊沢平光さんは営業中にもかかわらず「ご対応いただき、被災後のこのまでについて」「全壊した家の解体工事が七尾市はあまり進んでいません。自分たちが見慣れていた風景が変わって日常が失われました。だいぶ慣れましたけれど一時期は落ち込みましたね」とお話しされました。

続いて訪れたのは輪島市です。昼食を大下書店社長の大下克司さんと一緒にしました。2024年の視察の際に、2階の重みで1階の店舗が押しつぶさ



きくざわ書店の菊沢平光さん(左)、大下書店の大下克司さんを囲んで、輪島朝市の周辺は更地になり草が生い茂っていた



れてしまった光景に衝撃を受けましたが、現在の大下書店は道の駅「輪島ふらっと訪夢」近くの仮設住宅を拠点に中小高の教科書・副教材などは従来通りに取り扱い、市役所等への定期雑誌の配達を中心に営業を続けておられます。

「既に春の教科書販売の準備は始まっています。以前は朝市のそばに作業用の倉庫を借りていましたが火災の時に全部燃えてしまいました。半年前から教科書を送ってくる出版社もあるし、今の輪島では倉庫が借りられないので金沢にある石川県教科書販売所で一度預かってもらって、必要な時期が来たら送ってもらいます。助かりますね」

現在、輪島市では小学校6校が



北國新聞の安田さん(左)、輪島市立図書館の堂ヶ口さん、細谷さん

るのですが、来年度から6校が1校に、また東部地区では小学校と中学校が統合されます。震災の影響で少子化がますます進みました。大下書店には七カ所の仮設住宅集会所や公民館に寄贈図書の配達をお願いしていただ



すが、「子どもたちに本という『モノ』を届けるのはとても良いことで大事なこと」とおっしゃっていました。大下さんは書店再建に向けて動き出されているそうです。

初日の最後に訪ねたのは輪島ワイプラザ内の仮設輪島市立図書館です。輪島市立図書館・輪島市立門前図書館管理係長の細谷樹史さんと輪島市立図書館主事・堂ヶ口真奈さん、北國新聞社奥能登支社長・輪島総局長の安田哲朗さんにお会いしました。

旧図書館が併設していた文化会館は12月から解体作業の開始が急遽決まったために11月末に約8万5000冊の図書移動を急ピッチで進められた期末、また雪解けの頃に予定している図書点検や蔵書データの整理など、これからの課題を教えてくださいました。仮設輪島市立図



いろいろ書店・八木淳成さんと

馬渡さんも「ここは180戸ありますが、高齢者の孤独死を防ぐために仮設団地を4つの自治会に分けました。高さんは第3団地の会長として活動していただいています。まへんべんなく皆に声をかけられて、集会所では

後藤さんは「最初はこうしてこんな壁なんだろうと思っていました。でも、これを本棚にしたらと思ってやってみたら、いくらって(笑)。今では変な造りだと思っていた壁に感謝で

お話から久さんが地域の方々に

信じていきます。

書館の利用者数も徐々に回復傾向にあるとのこと。対話の中で、高齢の方が多い被災地なので新聞や印刷物の果たす役割が非常に大きく、今後は蔵書のリストや新しい本を寄贈した際には、その情報を北國新聞へも共有することに決めました。

2日目、由比ヶ丘団地集会所で出てくれたのは、穴水町復興推進課主幹の馬渡竹志さんと由比ヶ丘第3団地町内会長の高美緒子(たか・みおこ)さんです。高さんは集会所で住民が孤立しないように歌の会や散歩などたくさんイベントを通して住民と触れ合っています

毎日のように活動しているの

2代目・久さんの突然の訃報

北國新聞の安田さんが「一番

2カ所の仮設住宅集会所では温かくご対応いただきました



す。素人ながらに何度も本の場所を並べ替えているんですよ。新しい本は目につくところにまとめています」と楽しそうにお話しされ、また、寄贈図書以外にもたくさんの本が集められていることについては、「仮設の皆さんがお家を解体されるにあたって残されていた本を持ってきてくれました。それから古本屋さんも持ってきてくれて」と今では近隣からも本を借りて来られる方がいるそうです。「みんなの集会所」なのでいつでも自由に使ってくださいと、今はとても活用されています

慕われていたことが偲ばれました。

出版 歳時記

▽わが最寄り
駅前の広場には
年に何回か
古書市が立
つ。百メートル

ほどにびっしりと店が並び
壮観である。今回は花田清輝
『随筆三国志』など数冊購入
した。花田本は一九六九年刊
箱入りの初版本だが、中から
もとの持ち主らしい人のメモ
二通が出てきた。一通は日本
ゴム工業界の白紙のメモ用
紙、もう一通は日本ゴム工業
界専務理事○○名義で「全日
本ゴム労連との懇談会開催の
件」とあるメモ用紙。裏には
「○○ベルトの○○さん、本
社総務部長さんにTEBして
ください」という手書き文字
がある。この『随筆三国志』
にメモを残した人はどんな人
だったのだろうか。

ある読書人の痕跡

▽『随筆三国志』は、「陶淵明
の『桃花源記』という桃源郷と
は、外界からへだてられた永
遠に変わらない安居楽業の土
地。しかしそれはアジア的停
滞の美化以外のなにものでも
ない」という花田節がある一
方、現代は資本主義社会から社
会主義社会への転換期であり、
わたし自身、ソ連経済の一步、一
歩実現されていく過程を、半世
紀にわたり、ひそかに羨望の念
をもつてみまもってきた」とい
う時代的な下りもある。メモの
「労連」(総務部長)などからみ
ると、組合活動にかかわって
いた読書人だったのかもしれない。
▽師走の声をきき、去年今年の
あれこれが話題になり始めると
能率手帳B5版のダイアリーを

買う。四〇年来の習慣で現役時
代は仕事のスケジュール管理に
欠かせないものだった。日記を
つける習慣がついに身につか
なかった老生にとっては、これが
日記といえないこともない。し
かし仕事からはなれた今、書き
込まれるのはせいぜい病院通
いの予定、晩酌の肴、読んだ本
の録くらいなものである。読んだ
本には○、○、△、×の評価が
ついている。これということもな
く毎日が過ぎてゆく。それに抗
しての日々の確認、過ぎゆく
日々になんとか意味をもたせ
ようというマーキング、まあ、
犬の小便みたいなものですね。
▽陶淵明の読書は「好読書不
及甚解」だった。「読書を好む
しかし精緻な論理の分析や煩
瑣な哲学議論などにはそれほ
どの興味も情熱も感じなかつ
た」(福永光司訳)ということ
らしい。中国の学問の伝統の
ひとつは「掌句の学」で、簡野
道明「字源」によれば「一掌一
句の末のみをきわめて、大体
に通ぜざる学問」とある。読書
にあれこれを求めず、ただ読
書そのことを愉しむ。わが読
書も陶淵明の域に達したかと
おもったが、なに「甚解」を求
めても頭がついていかなか
ったというだけの話である。
▽毎年送られてくるお不動様
の開運歴、今年の注意事項に
「手、腰、肩、背中」とある。
これは思い当たる。ちなみに
昨年は「娘、若い女、甘言、
浮気に気をつける」であった
が、これについてはさしたる
ことは何もなかった。ご報告
まで。(老書生)

鉄尾周一氏(マガジンハウス) 大会委員長に決定

2025年12月10日(水)の一
般財団法人日本出版クラブ理事
会並びに評議員会にて、第65回
全出版人大会(2026年5月7

日)大会委員長として鉄尾周一
氏(マガジンハウス社長)を選出。
出版クラブ維持員動静

▽代表者変更

開隆堂出版||岩塚太郎↓井口廣
之

こぐま社||廣木和子↓佐藤慎

誠文堂新光社||小川雄一↓中川
慎司

▽住所変更

NHK出版||〒150-18081 東京都
渋谷区宇田川町41-1

出版クラブは皆さまの「クラブ」です。
お気軽にご利用頂ければと存じます。
出版イベントや各種会議・セミナー等
益々のご利用をお待ち申し上げます。

出版クラブホール・会議室 PUBLISHERS CLUB HALL

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-32
出版クラブビル

TEL 03-5577-1511/FAX 03-5577-1772
<https://shuppan-club-hall.jp/>

神保町駅(東京メトロ半蔵門線、都営新宿線・三田線)
A5出口より徒歩2分

